



## 西陣織の伝統の技を見て、 お話を聞く

西陣織の各工程ごとの工房をめぐり、  
職人さんたちの現場でお話を聞き、  
西陣織の工程を理解してもらい  
現地で直売等をしてもらうことができます。

## 「萬転」<sup>よろず</sup>萬ものごと <sup>ころ</sup>福に転がる

旅行を通してお客様に喜んでいただくことが  
私たちの喜びです。  
お客様と感動を共有できる企業を目指します。  
全てのことが好転していきますように。

### 会社概要

名称：萬転(まんてん)  
代表者：西河 豊治  
住所：〒603-8224 京都市北区紫野西藤ノ森町18  
電話：075-414-3366  
FAX：075-414-3367  
営業時間：10:00～18:00  
店舗休日：日曜・祝日

創業：平成16年10月5日  
加盟団体：社団法人全国旅行業協会  
社団法人全国旅行業協会 青年部  
社団法人京都青年会議所  
京都商工会議所 観光部会  
京都商工会議所 青年部(YEG)  
京都市北消防団 紫野分団  
バリアフリー旅行ネットワーク  
有資格：京都府知事登録旅行業第2-525号  
一般旅行業取扱主任者資格  
国内旅行業取扱主任者資格  
一般旅行業務旅程管理者  
国内旅行業務旅程管理者  
ホームヘルパー2級取得(訪問介護員養成研修2級課程修了)  
大型二種免許取得  
一般乗用旅客自動車運送事業許可  
普通救命講習終了

### 満足満点旅行企画 萬転

〒603-8224京都市北区紫野西藤森町18  
電話 075-414-3366 FAX075-414-3367  
Eメールnishikawa@n-car.co.jp  
営業時間：10:00～18:00 店舗休日：日曜、祝日



## 西陣の職人たちと出会う旅



満足満点旅行企画  
萬転

京都府知事登録旅行業第2-525号



### 【西陣織のはじまり】

京都で織物作りが始まったのは、平安京が築かれるよりも前の5世紀頃のこと。また、平安遷都とともに宮廷の織物を管理していた「織部司」と呼ばれる役所が置かれ、今の上京区黒門上長者町あたりに住んでいた職人に、綾・錦など高級な織物作りを奨励し発展したといわれています。

西陣の職人たちと出会う旅

**定番の観光ツアーでは  
味わえないほんまもの技、  
人と人との出会いを  
楽しんでください。**

西陣織の完成までには20を越えるプロセスがあり、それぞれの工程が分業化されています。  
各工程に高度な技術と豊富な知識が要求される西陣織。その工程のいくつかを実際に見学させていただきます。  
また、職人さんのお話を聞いたり、実際にお気に入りのものがあれば、メーカー直売価格で商品を購入していただくこともできます。  
きっと今までの観光ツアーで味わえなかった楽しみが見えてくるはずです。



### 【西陣織の由来】

1467年応仁の乱が終わると、各地に離散していた織物職人たちがもともと京都に戻り、山名宗全率いる西軍の陣地が置かれていたあたりで、織物作りを再開します。戦乱以前から織物の町として栄えていた京都北西部の一带が「西陣」と呼ばれるようになったのはこの頃から。西軍の陣地跡だから「西陣」です。



### 【スケジュール】

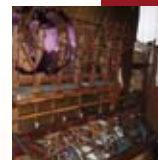
着時 滞在時間 出発時間 ツアー先

着時	滞在時間	出発時間	ツアー先
15:00			北六路駅 解散

スケジュールは変更になっております  
お手数ですが、ホームページをご参照願います。

### 【西陣織の工程】

織物を生み出すためには、多くのプロセスを経なければなりません。そして、その分野ごとに専門の技術をもった人々が存在しま



す。蚕から絹糸をとり、織物の種類に適した撚り糸をつくることにはじまる糸の道。

西陣の特色である先染めの紋織物であるために、糸染めの工程は重要視されています。このほか、デザインつまり意匠も大切なポイントになります。そして、そのデザインは、織物の設計図に描き直されるわけです。

その設計図をみながら、紋紙とよばれるパンチカードに穴をあけてゆきます。最近では、この工程をコンピューターに仕組んでいるところも多くなりました。さて、つぎの段階は、糸染です。糸染は生糸の総糸をほどいてきものや、帯のたて糸、よこ糸を染め分ける作業です。つぎは、たて糸をそろえる仕事があります。整経(せいけい)がそれです。それが終ると綜絢です。たて糸を、織機につなぎ合わせる作業。これではじめてよこ糸が通じて文様が織りあがってゆきます。これらの準備工程を、西陣では「機ごしらえ」と言っています。



こんな状態で、西陣の分業の部分は、それぞれの世界があって、いろいろな人たちが、西陣という地域のなかで助けあって生きています。